ふるさとはかわらず、ここにある

3月31日(金)、津島、室原、末森地区の特定復興再生拠点区域の避難指示が解除されました。

今年の桜は避難指示解除にあわせたかのように一気に開花しました。

寒い冬を乗り越え、きれいな花を毎年咲かせる桜は、「寒くつらい冬のあとには必ず春が来る」と、私たちを勇気づけているようです。

震災からの復興に向けて歩み続ける私たちの背中を押してくれているのかもしれません。

復興が進むにつれ、町並みは変わっていきますが、震災前と変わらないふるさとの景色もたしかにあります。

皆さんにとってのふるさとの景色はどのようなものでしょうか。

次の頁では、末森に帰還されたご夫婦に、二人にとってのふるさとを伺いました。

酒田地区

請戸川リバーライン

満開の桜に笑顔があふれる

4月上旬、桜の見ごろを迎えた浪江町。たくさんの人が桜の花に誘われて浪江町に訪れました。

桜を見ながら散歩を楽しむ人、カメラを片手に撮影する人など思い思いの時間を過ごしました。

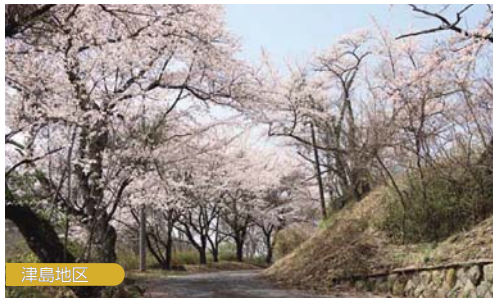
やわらかな春の日差しの中を、風に乗って散っていくけれど、最後のその瞬間まで一生懸命に花を咲かせる桜。

そんな桜の姿を見ると、「今年も一年、一生懸命に生きていこう。」と、思えるのかもしれません。

高瀬地区

末森地区

室原地区



津島地区

立野地区

この景色がほっとする

私たちにとっての〝ふるさとの景色〟

避難生活では、大きなマンションや新興住宅に囲まれ、狭い空と安らぎとなる自然が少ない土地で、日々を過ごしていた古内さん夫婦。

お二人は「自宅から見える自然の景色が好きだ」と、語ります。

古内さん夫婦にとって震災前から変わらない〝ふるさとの景色〟は、「ふるさとに帰ってこられた」という安心感と懐かしさを覚えるそうです。

自宅から〝ふるさとの景色〟を眺める古内さんご夫婦

古内 博之さん(75)・保子さん(73) 末森地区

一度はあきらめたふるさとに帰還された古内さんご夫婦。
お二人はどのような想いで、「ふるさと」と向き合って、帰還したのでしょうか。

12年ぶりに帰ってこられたふるさと

末森で迎える〝ほっとする春〟

末森での新しい一歩

3月31日㈮、特定復興再生拠点区域の避難指示解除にあわせて新生活を始めた古内博之さんと保子さん。

博之さんは「もう帰ってこられないと思っていた末森にようやっと帰ってこられた」と、保子さんは「末森のこの景色が好きで、ここにいるだけで心がほっとする」と、二人は向かい合って笑顔を見せてくれました。

帰還への葛藤と決意

古内さん夫婦は「末森が特定復興再生拠点区域となったことで、浪江町へ戻れるんだとわかった。たとえ、周りの人たちが末森に帰ってこられなくても、私たち夫婦は必ず帰るんだ」と、決意したことを教えてくれました。

決意を固めた二人は、避難先で新築した自宅と土地を売却し、売却資金をもとに末森の自宅再建費用に充てました。

この土地で住んでいく

浪江町の新生活を聞くと、「生活が始まってすぐは、周りに住んでいる人も少なく、真っ暗な夜に聞こえる獣の鳴声で少し不安になりました。でも、イノシシやサルを目にすることもなく、安心して暮らせています。買い物面で不便なのは、震災前と変わらないから、困っていることは思ったよりもないんです。帰ってこられたという嬉しい気持ちでいっぱいです」と、話す保子さん。

博之さんは通院のため、いわき市の病院へ定期的に通っており、「病院で紹介状を書いてくれるって言われたけど、浪江に病院も薬局もないんだよなぁ」と、不安の一つを教えてくれました。

それでも、博之さんは笑顔を見せ、「ここでの生活は精神的にとても良い。自宅の畑で、季節野菜を育てているから、体を動かす機会も増えて、お腹周りが少しすっきりしたんだ」と、浪江での生活が精神的な支えとなっていることを教えてくれました。